

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について(概要)

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としている。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

### (2) 調査内容

ア 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語(中学校))

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

①児童生徒質問紙(小・中学校):調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

②学校質問紙(小・中学校):学校を対象とした、指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

ウ 調査対象:国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年

原則として全児童生徒

エ 出題範囲:原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

オ 出題内容:下記(1)と(2)を一体的に問う。

(1)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等

(2)知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

## 2 神河町の状況

### (1) 本件の調査実施校数、人数

小学校 6 年生:3校 71人

中学校 3 年生:1校 73人

### (2) 教科に関する調査の状況

#### ①平均正答率の状況

| 学 年         | 教 科 | 神 河 町  |
|-------------|-----|--------|
| 小学校<br>6 年生 | 国 語 | おおむね良好 |
|             | 算 数 | おおむね良好 |

|            |    |        |
|------------|----|--------|
| 中学校<br>3年生 | 国語 | おおむね良好 |
|            | 数学 | 良好     |
|            | 英語 | おおむね良好 |

② 特に課題と考えられる問題

ア 小学校

< 国語 >

話すこと・聞くこと

- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめること

書くこと

- 図表やグラフなどを用いて、自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫すること

読むこと

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけること

< 算数 >

図形

- 正三角形の意味や性質を理解すること
- 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること

イ 中学校

< 国語 >

話すこと・聞くこと

- 目的や場面に応じて質問する内容を検討することや、聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめること

書くこと

- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと

読むこと

- 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること
- 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること

< 数学 >

数と計算

- 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つことを見だし、説明すること

図形

- 空間における平面が同一線上にない3点で決定されることの理解
- 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ること

関数

○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

#### データの活用

○複数の集団のデータの分析の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

#### < 英語 >

##### 書くこと

○社会的な話題について、自分の考えやその理由などを書くこと

○文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くこと

○日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと

##### 話すこと

※英語の「話す」は、初めてオンライン方式によって、生徒1人に1台配られたデジタル端末で回答する方法で実施された。

○動物園のやりとりの中で、留学生の質問を受けたり、質問をしたりすること

○環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝えること

### 3 質問紙調査結果(児童生徒、学校)

#### (1)学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

##### ①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- ・各小中学校において、調査対象学年の児童生徒が、授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができるような取り組みを進めている。
- ・各小中学校において、調査対象の児童生徒が、前年度までに、授業において児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。
- ・各小学校で調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けているが、中学校においては課題が残る結果となった。
- ・調査対象学年の児童生徒はが、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行っているという回答した学校は、小学校では100%であるが、中学校では「どちらかといえば、そう思わない」と回答している。

##### ②個別最適な学び(個に応じた指導)・協働的な学びに関する状況

児童生徒への質問紙でも、学校の指導状況や児童生徒の受け止め方でも肯定的な回答であったので、各学校において昨年までと同様、個別最適な学び(個に応じた指導)・協働的な学びに関する取組が実施されていることが分かる。

#### (2)英語の学習状況

##### ①学校における言語活動等の取組状況

※外国語科における言語活動とは、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝えあうなどの活動を意味する。

中学校での英語の言語活動を「聞く」「読む」「書く」「話す(やり取り)」「話す(発表)」「総合的な言語活動(聞く/読む⇒書く)」「総合的な言語活動(聞く/読む⇒話す)」の項目を「学校の指導状況」「生徒の受け止め方」で考察した結果、学校の指導状況の多くに「あまり行わなかった」という回答が見受けられる。また、生徒の受け止め方も全国平均と比較して下回っている言語活動が多い。その中でも、「話す(やり取り)」と「話す(発表)」の取組の受け止め方が低い状況にある。更なる取組みの工夫が必要である。

#### ②英語学習に対する興味・関心や授業の理解度等

児童生徒質問紙の中に、「英語の勉強は好きですか」(児童生徒)、「英語の授業の内容はよくわかりますか」(中学校のみ)がある。最初の問いに肯定的に回答する中学生との割合は、小学校児童よりも約13ポイント(全国では、11ポイント)少ない。

「英語の授業の内容はよくわかる」「英語の勉強は好き」と回答した中学校生徒の割合は全国平均より少し低いが、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」は全国平均より高い結果となっている。

言語活動に取り組んでいたと受け止めている中学校生徒ほど、「英語の授業の内容はよくわかる」「英語の勉強は好き」と回答している傾向がみられる。

#### ③授業外における英語学習の取組

「家庭学習の課題(宿題)として、どの程度 PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。」という問いに対して「週1回以上」と回答した中学校性の割合は全国平均より高い結果となっている。

### (3)ICT を活用した学習状況

#### ①ICT の活用状況等

ICT 機器の活用は進んでおり、授業において ICT 機器を「ほぼ毎日」活用している学校がほとんどで、「週3回以上」の活用を含めると100%になる。

児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器の用途については、「特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援」が一番多い。今後も「不登校児童生徒に対する学習の支援」や「児童生徒の心身の状況の把握」や「児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援」などの活用を充実させていく必要がある。

#### ②個別最適な学び(個に応じた指導)や主体的・対話的で深い学びにおける ICT の活用状況等

児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、個に応じた指導や自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組むなど、授業における様々な場面で ICT 機器が活用している。今後も、ICT 機器を活用しながら主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進していく必要がある。

### (4)児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感に関する状況

#### ・自分にはよいところがあると思いますか

肯定的な回答をした小学校児童は、増加傾向で今年度は85%に増えた。中学校生徒では数年間85%前後で推移している。

#### ・将来の夢や目標を持っていますか

肯定的な回答をした小学校児童は増加傾向にあり本年度は、87%に増加した。中学校で

は、60%を境に増えたり、減ったりしている。

- ・学校に行くのは楽しいと思いますか

肯定的な回答をした児童は約85%で推移している。肯定的な回答をした生徒は3年前から80%を超えて、毎年少しずつであるが増加傾向にある。

- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

肯定的な回答をした児童生徒は、増加傾向にあり小学校では90%を超えるようになった。中学校でも85%を超えている。

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

肯定的な回答をした児童生徒は増加傾向にあり、児童生徒ともに約80%になった。

- ・友達関係に満足していますか(新規)

肯定的な回答をしたのは小学校児童より中学校生徒の方が高くなっている。中学校では、本年度97%に増えている。

- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか(新規)

肯定的な回答をした児童生徒は、約90%に達している。